



代表取締役社長

大森 裕之 氏

三井物産クレジットコンサルティング 株式会社

東京都中央区日本橋人形町1-14-8 郵船水天宮前ビル5階

<https://www.mitsui-credit.com/>

## 設立 20 周年を迎えるにあたりての 心境をお聞かせください。 FACE-TO-FACE で「第二の創業」

総合商社・三井物産(株)100%出資子会社である三井物産クレジットコンサルティング(株)(MCC)は、三井物産で長年培われてきたリスクマネジメントのノウハウを活用し、あらゆるソリューション(解決策)をワンストップで提供する、与信債権管理に関する総合コンサルティング企業である。

国内取引の信用リスク管理をサポートする「SMART(スマート)与信管理サービス」や、クラウド型の海外企業与信判断サービス「CONOCER(コノサー)」のほか、債権保全事業、研修・セミナー事業なども手掛けている。設立以来、精度の高い格付、各種企業情報、取引信用保険などを組み合わせ、実務経験豊富なコンサルタントによって、600社を超えるユーザーの与信・債権管理業務を支援してきた。

昨年12月11日、MCCは設立20周年を迎えた。代表取締役社長・大森裕之氏はこれを「第二の創業」と捉え、更なる発展を目指していく考えを示した。

大森社長に現在の心境と今後の展望について聞いた。

— 20周年を迎えるにあたりての心境をお聞かせください。

大森(敬称略) 整社の場合、三井物産というバックグラウンドはあります。一般的に企業を20年間存続させることは大変難しく、弊社が無事20周年を迎えたことは、その間しっかりと事業を続けることが出来た証だと思います。また取りも直さず、これは従業員全員が一生懸命努力してくれた結果であるとともに、600社を超えるお客様からの叱咤激励の言葉をいただいたお陰であり、大変感謝する次第です。

企業の20周年とは、人間ならば「成人」したことと同じですから、私はこれを「第二の創業」だと位置付けております。例えば、今日では与信管理の手法にもAIなど新しい技術が登場してきていますが、「信用」とは人ととの関わりの話ですので、やはり変わらない部分はたくさんあると思います。デジタルから覚醒されるリアルな世界を大切に、弊社の商品やサービスの品質を高めていくことには、これからも邁進していくかなければならぬと考えております。

— 昨今のコロナ禍における与信環境について、どのような見解を

## お持ちですか？

**大森** コロナ禍以前からすでに「倒産が増えるのではないか」と

いう認識がビジネスの世界で浸透していたかと思います。そんな矢先にコロナ禍に見舞われたわけですから、弊社としましても、企業の信用リスクについてはより一層注意深く見ていかなければならないと考えております。

コロナ以前に比べると、「何が起きるかわからない」と、取引先に対し疑心暗鬼になっているお客様が増えており、国内外を問わず、与信に対する感覚が鋭くなっている気がします。とはいうものの、中小企業金融円滑化法や数々の政府の金融支援などもあって、これまで目に見える形での企業倒産は少ないので実態です。なにかには「この10年間で取引先の倒産は1件も無かつた」という企業もあります。昨今のコロナ禍にあつても、政府や金融機関からの金融支援により、倒産は思つていなかったほどには増えませんでした。

そのような状況のなかで、与信審査の専門部署や担当者を置く企業は少なくなり、総合商社でも規模を縮減しているのが実情です。日本全体として信用リスクに対する

審査能力が低下してきているような気がします。逆に言えば、それだけ与信管理のニーズは高まつており、弊社が活躍させていただける環境になつているのかも知れません。

弊社では「ウイズコロナ」時代にあって、お客様に対し取引先の信用リスクに慎重な対応を呼びかけております。既存の与信の見方に対し、健全な問題意識を持つ必要があると思います。例えば、すでに一部ファクタリングなどが使いにくくなるという問題が現実に出てきていますから、今のうちに早めの債権保全が必要だと思ひます。

これを機に是非、弊社をご活用いただければ幸いです。弊社を「壁打ち」としてさまざまな相談や質問をぶつけていただき、意見交換をしていくなかで、与信管理業務を布拉ッショアップしていくお手伝いができるかと思います。ツールとしてはインターネットで行いますが、大事なところはFACE—I TO—I FACEをお話したうえで夫々お客様に合った与信管理体制をご提案させて頂きます。

かせください。

## 大森

お陰様で、この20年間はインターネットを使った与信管理ツール「SMART与信管理サービス」が与信管理担当の方々のニーズにマッチして導入数を増やすことができました。そのような

意味において、現状は踊り場の時期に来たなど感じています。そこで「第二の創業」として次のステージに移行するうえでは、先程も申しましたように、FACE—I TO—I FACEを重要視しております。一人ひとりのお客様に寄り添いながらお悩みをお聞きし、どのような解決手段をご提供するかといったところに主眼をおいたビジネスに取り組んでいきます。お客様の問題を解決し、「喉のつかえ」をスッキリ取り除いて満足していただけると、結果として弊社の業績伸張に繋がつて行くことになると

思います。

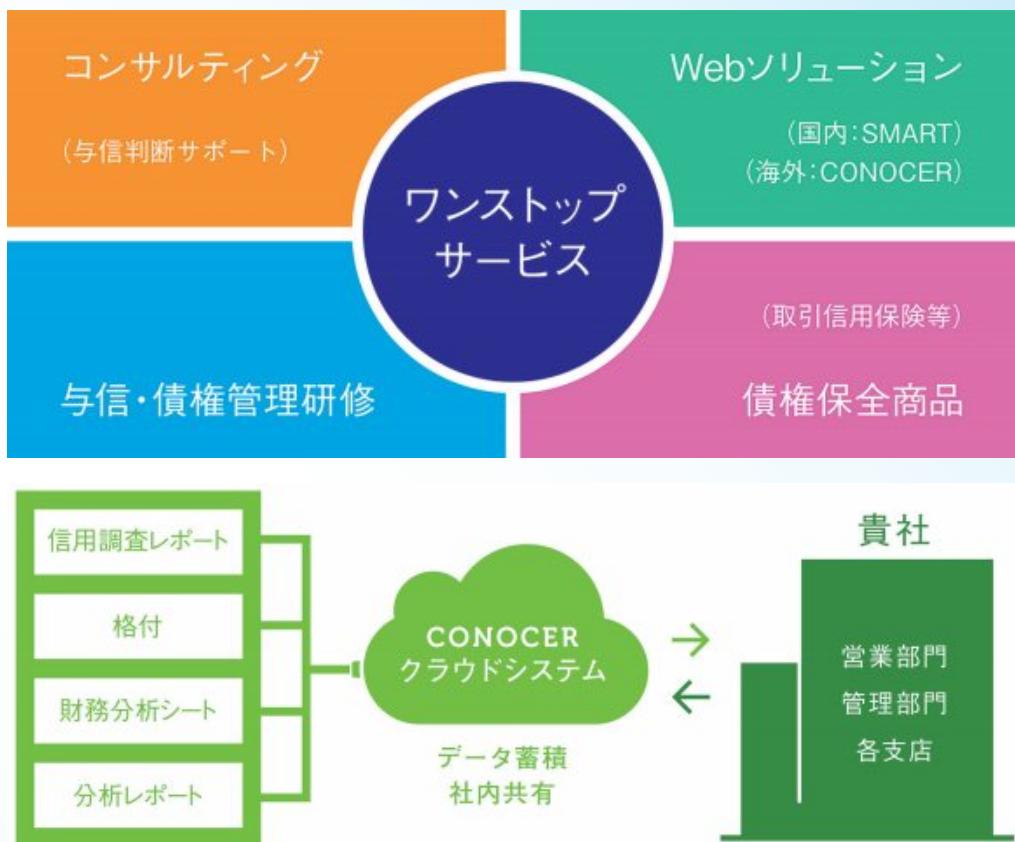
さて、ただいま出先の与信問題を解決に導くご提案やお取組みができるかと思います。また、大手総合コンサルティング企業に対しても弊社の与信管理のノウハウをご提供し、共同でコンサルティングを開ける余地があり、パートナーリングを進めています。

いずれにしましても、与信管理に対するニーズが高まつていくなかで、ご要望に対ししっかりと役割を果たせるよう精進していく所存です。また、皆様のご期待にお応えするためには、まずは我々自身を高めていかなければなりません。私共の内面に向けても充実を図つていく必要があります。

弊社は30人程度の小粒な会社でございますが、ユニークで存在感のある会社であります。世間の皆様から「与信管理」という面白いことをやつている会社」と思われるようになりたいのです。また、しっかりと仕事ができる実力者集団になつていきたくと考えております。

—「第二の創業」の成功をお祈りします。長時間ありがとうございました。

# 三井物産クレジットコンサルティング 与信債権管理をワンストップで支援



コノサーは調査依頼から信用調査レポート等の各種納品物のご提供まで、クラウドシステムで完結。インターネット環境さえあれば、いつでもどこでもご依頼や情報へのアクセスが可能。

画像提供：三井物産クレジットコンサルティング㈱

MCCは、与信債権管理に関する総合コンサルティング企業である。三井物産で長年培ってきた与信判断の考え方をインターネット経由で提供するサービスを中心としている。三井物産のノウハウのみならず、パートナーの信用調査機関の評価なども加味し、総合的な判断を提供するものである。

またこれに加えて現在特に注力しているのは、顧客企業の与信判断状況や与信管理体制を診断し、より良い方向への改善を提案する個別コンサルティングである。そのなかで個別案件に対して債権保全のアドバイスを実施しており、与信債権管理にかかるトータルなワンストップサービスを特徴としている。

さらには、研修・セミナー事業にも積極的に取り組んでおり、与信債権管理に貢献する良質なナレッジ・スキルを提供している。与信債権管理の要諦を初步から学べる集合型「MCCセミナー」を中心を開講し、

昨年は新型コロナ感染症拡大の影響で開講頻度は低下したが、通常は年間約100回開講している。また、与信管理初心者のための基礎的な財務分析、中間管理職向けの研修など、顧客の要望に応じたオーダーメイド型の研修も実施している。

## SMART与信管理サービス

MCCの与信管理事業は、インターネットで国内取引の信用リスク管理をサポートする与信管理ツール「SMART与信管理サービス」を基盤としている。これは、三井物産の長年の取引実績のデータから分析した信頼度が高い信用格付けを活用するもので、ユーザーが必要項目を入力するだけで対象企業の格付けと、与信限度額のガイドラインとなりうる適正与信金額を自動的に算出することができる。インターネットを通じてアプリケーションを提供するASPである



[商号] MCC物産(株)

取引先コード	123456789	TSRコード	123456789	設立年月	1234/12
取引先名	MCC物産(株)	法人番号	123456789123	代表者名	三井 太郎
住所	東京都中央区日本橋人形町1-14-8 郡船木天宮前ビル5階			電話番号	03-1234-5678
業種	各種商品卸売業(100人以上)			資本金	123,456,789千円

操作ステップ

- 与信判断実行
- 与信判断結果表示
- 取引先ファイル登録
- 登録完了

ユーザ所有最新データ				SMART所有最新データ	
連単区分	決算期	格付	データ区分	連単区分	決算期
連絡				連絡	2018/03
単体	2018/03	S1	購入	単体	2018/03

TSR企業情報	
調査日	決算期
2018/08/14	2018/03

与信判断結果		最新与信判断情報		過去格付情報	
決算期	2018/03	MCC格付	S1	2017/03	2016/03
データソース種別	財務情報総合判断	財務情報総合判断	財務情報総合判断	財務情報総合判断	財務情報総合判断
充適正与信金額	200,000,000円	決算期の表示は、SMART所有財務、ユーザ所有財務の決算期又はTSR企業情報上の「決算年月」を取り付け表示しています。			
倒産確率	0.0%				
会社状況	非倒産				
与信判断日	2019/05/29				

Q 取引先ファイルに、与信判断結果を保存しますか？

ファイルに保存 保存しない

画像提供：三井物産クレジットコンサルティング株

ため、ユーザーが自社のパソコンに特別なソフトやプログラムをインストールする必要がなく、インターネットを使用できる環境であれば誰でも利用することが可能である。また、海外取引の与信管理については、クラウド型の海外企業与信判断サービス「CONOCER」を展開している。「海外企業の情報をタイムリーに入手したい」「海外取引の信用状態を評価・判断できる人材が社内にいない」「代金回収不能などのトラブルを未然に防ぎたい」という海外取引につわる不安解消に役立てられる三井物産の与信管理手法を管理ツールに落とし込んだもの。

大森社長は、SMARTの開発について、「同じ会社を評価するにしても与信管理担当者によって個人差が出ることがあり、ある程度機械化することで担当者の目線を統一する必要性を痛感したことがきっかけ」と語った。MCC設立の背景がそもそも、このような三井物産で培った貴重なノウハウを社外にも提供することで、それが世の中通用するのかどうかを問うてみたいという考え方から始まったのだという。このことを実績として証明した20年間であったといえる。

たため、ユーザーが自社のパソコンに特別なソフトやプログラムをインストールする必要がなく、インターネットを使用できる環境であれば誰でも利用することが可能である。また、海外取引の与信管理については、クラウド型の海外企業与信判断サービス「CONOCER」を展開している。「海外企業の情報をタイムリーに入手したい」「海外取引の信用状態を評価・判断できる人材が社内にいない」「代金回収不能などのトラブルを未然に防ぎたい」という海外取引につわる不安解消に役立てられる三井物産の与信管理手法を管理ツールに落とし込んだもの。

大森社長は、SMARTの開発について、「同じ会社を評価するにしても与信管理担当者によって個人差が出ることがあり、ある程度機械化することで担当者の目線を統一する必要性を痛感したことがきっかけ」と語った。MCC設立の背景がそもそも、このような三井物産で培った貴重なノウハウを社外にも提供することで、それが世の中通用するのかどうかを問うてみたいという考え方から始まったのだという。このことを実績として証明した20年間であったといえる。